

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリー：変化をもたらす



少年・少女の夢再び

Rotary : Making a Difference

RI 会長 イアン H.S. ライズリー

2017~2018

富津中央RC会長 石渡 鋼

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2497 第6回例会 2017. 8. 17 小雨のち曇

点 鐘：石渡 鋼 会長

進 行：大網庄一郎 副 SAA

ソング：君が代、奉仕の理想

お客様：富津中学校教頭 財前 司 様

会長挨拶

石渡 鋼 会長



皆さん今日は。今日はいきなりですが俳句を披露します。

「緑陰の風惜しみつつ椅子畳む」

すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、月曜日の朝日新聞の俳壇に選ばれた当クラブ三枝一雄会員の句であります。ご本人は本日欠席されて居られますが、この俳壇には入選の常連者ですので私は毎週月曜日に探すのを楽しみにしています。

さて今日もう一つの慶事をご紹介します。本日のお客様富津中学校の財前教頭先生が来てくださり後ほどご挨拶をいただきますが、富津中サッカー部が何と全国大会への出場が決まり選手たち

は昼の羽田便で会場の熊本県に向かったとのこと。実はあの猛暑の8月9日前だったかと思いますが、ダイバー神子さんからのこの件の電話があり、10日の例会は休会の為各理事さんにMail や FAX で連絡を取るやら、一緒に中学に伺った上、取り急ぎ些少のご援助をさせて頂きました。財前教頭先生にはお礼はともかくロータリーの皆が声援しておりますと川田校長先生にお伝えくださいます様に。

サッカー部の少年たちが全国大会、それも九州で、実に素晴らしい事ではありませんか。愚生の年度目標「少年の夢云々・・・」の模範の様な出来事と感ずる次第です。

この慶事で思い起こした愚生の全国大会出場の話話をきいて下さい。それは今より五十数年前、高三の秋でした。私の通った高校は安房農業高校と言って千葉県で通学に片道2時間もかかる最も辺鄙な田舎町にありました。(今は校名が変わってしましましたが)農業高校としては全国に名の知れた学校でした。その一つに農業高校だけの全国大会でクラブ活動の研究発表を競う部門があり、その年は当時社会問題化していた農村の嫁不足の調査と対策というような難題に取り組んだ記憶があります。発表者は女子クラスから美形の2年生、愚生は言わばマネージャー役で、発表者に「スタート」の声を掛けるのが役目です。県大会、静岡県磐田市であった関東甲信越大会と順調に勝ち進み、決勝も絶対勝てるかと参加した引率の先生・我ら生徒15~6人の

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3

いち川旅館 Ichikawa ryokan

841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,

Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178

URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>

Mail home@futtsuchuo-rotary.org



誰もが信じていたのです。ところが審査発表には何とオーバータイムの失格。そう私が浮足立って大きな声で「はいスタート」からカウントされて発表者の第一声にプラスされたのでした。甲子園高校野球の決勝9回表2アウト落球から始まるサヨナラ負け、その当事者になった気持ち。人生肝心なところでの大ミス、この癖は後年増すことはあっても、止むことはなくトラウマとなりました。

例会終了後理事会を行います。

幹事報告

平野安照 幹事



1. 千葉犯罪被害者支援センターへの2万円寄付に対する礼状及び賛助会員証受領
2. 地区大会記念ゴルフ大会の案内受領(回覧)
日時・場所:10.23(月)藤ヶ谷カントリークラブ
プレー費20,000円、登録料10,000円
申込締切:9.22まで
3. 富津中学校サッカー部に30,000円を寄付
4. ロータリー日本財団より確定申告用寄附金領収証受領、各会員へ配布
5. 木更津RC、君津RC、富津シティRCより活動計画書受領(回覧)
6. 富津シティRCより週報受領(回覧)
7. 米山記念奨学会より創立記念特別寄付表彰盾を受領
8. 袖ヶ浦RCより例会変更のお知らせ受領
休会:平成29年9月18日(月)定款第8条第1節C項により休会
変更:平成29年9月25日(月)点鐘12:30
ガバナー公式訪問のため

お客様挨拶

富津中学校教頭 財前 司 様



富津中学サッカーチームが全国大会出場にあたり、財前富津中学校教頭が当クラブからの3万円の寄付に対するお礼とチームの全国大会遠征日程について話された。

誕生祝



平川恵敏 昭和24年8月24日生

誕生祝一言

平川恵敏 会員



お祝いに蔵王高原牛を頂きまして誠にありがとうございました。

私は、1949年(昭和24年)8月24日に広島で生まれまして、今度で68才になりました。あと、2年で

古希を迎えるわけですから感慨ひとしおであります。

これからは先輩にご指導を仰ぎながら今までお世話になった方々への恩返しをして行きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

感謝状受領

榎本守男 前会長



米山記念奨学会より、当クラブ50周年記念式典における同奨学会への寄付に対し、榎本前会長あてに感謝状が授与された。

クラブフォーラム

会員増強について

高橋裕之 会員増強委員長



本日は、会員増強フォーラムと云うことですが、8月5日(土)のマザー牧場移動家族例会に2名の会員候補をお迎えして親睦例会を開催しましたので、それを元に会員の皆様の積極的な新入会員の勧誘を進めたいと思います。

いまは、同業種5名までの入会も可能と云うことなので、是非、同業の会員候補も掘り起こしていただきたいと思います。また、4半期毎に一名以上の新入会員を増強したいとも考えますので、こまめに増強ミニフォーラムを有志で個別開催していきたい

と考えますので会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。

お知らせ

吉野地区『ふれあいの集い』参加について

高橋裕之

恒例となりました、吉野小学校での『ふれあいの集い』に山田会員より出演依頼が正式にありました。本年も参加したいと思いますので、バンドメンバーならびに会員の皆様よろしくお願い致します。

なお、第1回目の曲目決定ならびに練習日を8月20日(日)17:00より、西大和田ラウンドウラにて行いますので、重ねてよろしくお願い致します。

卓話 北欧3国の旅

須藤 隆 会員



7月18日～25日の8日間の日程で北欧3か国を旅してきました。リタイアをして9年間で11回目の海外旅行となりました。過去10回は家内と一緒に、同行する連れがおりましたが今回家内が同行しないことになり、連れがいないことに多少の不安もありましたが、旅行社が企画するツアーでの旅ですので一人旅でもさほど心配はしませんでした。

主な旅程は、羽田を立って、フランクフルト経由で、先ずアンデルセンの童話で知られるデンマークのコペンハーゲンに到着。翌日、岸壁に佇むかの有名な人魚の像や宮殿の衛兵等の観光地を巡ったのち、夕刻、デンマークを出港してスウェーデン、ノルウェイを挟む海峡約400Kmを大型客船で16時間かけてノルウェイの首都オスロに向かいました。オスロ着後、オスロ市内を見学して午後、ノルウェイの有名なフィヨルドのある地方に向かい、2日間も

多くのフィヨルドを目の当たりにして、自然の素晴らしさに感動しました。フィヨルドについてはご存じない方もいるかもしれませんので簡単に説明すると、「氷河期時代に山間に堆積した氷河が、山を侵食しU字谷ができ、それが海面の下に沈み込んで海水が侵入して湾深く湾入りした細長い入り江のこと」で、両サイドは数百メートルもある断崖に囲まれ、長さは200Kmに及ぶものもあります。中でもノルウェイ第二の都市ベルゲンの街並みの美しさと百数十メートルの山から見下ろす街並みとフィヨルドの景観には何とも言えない美しさを感じました。更に、フィヨルド地域をクルーズとフロム観光鉄道で満喫してフィヨルド観光を終え、オスロまで戻り、翌日バスにて8時間かけてストックホルムに向かいました。スウェーデンに入り途中、カールスタッドという都市で昼食をとり、その街を1時間ほど散歩したのですが、街並みはきれいで、橋にはきれいな花のプランターが並び、近くの芝生では、女性が水着姿で読書している光景が印象的でした。翌日の最終日はストックホルムの市内観光です。ここでのメインはノーベル賞の授賞式や晩さん会が開かれる市庁舎の見学です。テレビで映し出される国王からのノーベル賞授与式や晩さん会の光景が思い出される場に足を踏み入れ、はるかストックホルムまで来たことを実感しました。この時初めて、ノーベル平和賞だけはノルウェイのオスロで授与されていることを知りました。以上が大まかな旅程ですが北欧を旅して新たに得た知識を整理してみたいと思います。

北欧とは近世まではデンマーク、ノルウェイ、スウェーデンの3か国を指したそうですが、地域としては現在のアイスランド(旧デンマーク領)やフィンランド(旧スウェーデン)も含み、ソ連崩壊後独立したバルト三国(エストニア、ラトヴィア、リトアニア)も含むようになったとのこと。

今回訪問したデンマーク、ノルウェイ、スウェーデンはいずれも国王を元首とする立憲君主国です。国の面積と人口はデンマークが、日本の九州と同じくらいの面積で人口550万人、ノルウェイが日本とほぼ同じくらいの面積で人口は470万人、スウェーデンは日本の1.2倍の面積で920万人です。通

貨はデンマーククローネ、ノルウェイクローネ、スウェーデンクローネと3か国とも異なります。いずれも1クローネが13円~18円ぐらいです。いずれの国も税金(消費税は3か国とも25%、ただし、生活必需品は14%)は高いけれども、福祉は行き届き、国民の多くは高い税金を不満とせず、現在の恵まれた福祉に満足していると聞かされました。高い税金を払っている国民の政治に対する意識は強く、市会議員の選挙の投票率は80%を優に超えるそうです。市議会の議員は100名以上とのことですが、そのうちいわゆるプロの議員は10数名で、残りは、将来のプロ議員を目指した弁護士、大学教授、医師、企業人等の知識人だそうです。プロ議員を除いて多くの方が別の職業を持っているため議会は夕刻4時から午後10時にかけて行われとのこと。

国連が毎年発表する幸福度ランキングの2017年度は1位ノルウェイ、2位デンマーク、3位アイスランド、4位スイス、5位フィンランド、10位スウェーデンと旧ソビエトの北欧諸国を除くすべてが10位以内に入っています。因みに幸福度の尺度は何の要素を加味しているかというと、一人当たりのGDP(国民総所得)、社会支援(福祉の充実)、健康寿命、社会的自由、性の平等、寛容さ、社会や企業の腐敗の少なさ(汚職等)等が挙げられています。関心のある国の幸福度を調べてみると、アメリカ14位、台湾33位、日本51位、韓国55位、中国79位、ブータン97位だそうです。世界一幸福な国と言われているブータンが97位は意外でしたが、これは幸福に関する考え方が、国連の定義する考え方とブータンの国民が考える幸福との違いによるものと言われています。言語はデンマーク語、ノルウェイ語、スウェーデン語といずれも異なりますが、小学校1年生から英語教育が必須とのことと国民の90%はネイティブと同じくらい英語を話すといわれました。確かにレストランや商店では我々にはすぐに英語で話しかけてきました。今回の旅行を通じて北欧諸国の美しい街並みと合わせて、現地のガイドさんから福祉の充実ぶりを聞かされ、改めて北欧諸国の魅力を再認識しました。

北欧旅行写真集



有名な人魚のブロンズ像(デンマーク)



ヴィーゲラン公園の欄干に老若男女121体もの彫刻が群立(オスロにて)



山頂からフィヨルドに流れる滝
(日本画家平山郁夫も画いたという)



ヘンゲルの街並みとフィヨルドを見下ろす山頂から
(筆者記念撮影)



スウェーデンの都市カールスタードの散歩道
橋の欄干にプランターが飾られているのが印象的

前期卓話

・・・前号の続き・・・

榎本守男 会員

11月が来ると、日時の観念ではなく、今日が渡海の日ではないとホッとするようになりました。雑木にうつろな眼をあて、かすかな波の音を聞くようになったのです。

渡海当日、金光坊は身動きが出来ませんでした。

いよいよ定刻に寺を出ると、境内から海岸にかけては人で埋まっていました。自分が身をゆだねる船は今まで以上に小さな船だと感じたのでした。同行人の乗る3艘の船は大きく見えた。船に乗ると大きな木の箱が運ばれてきてすっぽりと頭からかぶせられ、やがて一方の扉から物が運びこまれた。金光坊が船べりに立つと群衆がどよめき賽銭が雨の様に投げつけられた。船は動き出した。綱切島に着いた時、板の隙間から船外をのぞいて見た。

暗い海面が果てしなく続いていた。「お上人様、おさらばですじゃ」船頭の声がした。

予定では、ここで見送り人と一夜を明かし、翌朝お別れする習わしであったが、天候が荒れ模様で帰れなくなる為すぐに艫綱を切った。

船は激しくゆれ一層黒くなった海面が激しくぶつかった。どれだけの時間がたったのか金光坊はわか出らなかった。起き上がると屋形にありっただけの力でぶつかった。やがて屋形の一部が壊れ外に投

げされた。金光坊は板子一枚につかまっていた。綱切島に打ち上げられた。嵐で島に留まっていた同行人に夕刻発見されたのです。

金光坊は食事をさせられた。見送りの僧侶たちは永いこと相談をし、漁師に一艘の船を運ばせ、それに金光坊を乗せた。多少元気を取り戻していたが船に移される時それでも聞き取れるか聞き取れないぐらいの声で「救けてくれ」といった。何人かの僧はその金光坊の声を聴いたはずだったが、それは言葉として彼らの耳には届かなかった。

金光坊は求観音者 不心補陀 求補陀者 不心海と震える手で筆を走らせた。

此処に至っても師の心境を捉える事が出来なかった。これは悟りの心境なのか激しい怒りの発露なのかもわからなかった。

間もなく箱が金光坊の上にかぶせられ、今度はしっかりドンドンと打ち付けられ、生きている金光坊を乗せて船は再び潮の中に押し出された。

聞き取れるか聞き取れないかの声で「救けてくれ」と言ったのは、一度延命した金光坊が再び船に移される時思わず漏らした場面の描写です。尊崇され、輝かしい浄土へいく為に修行を重ねた高僧ですら、現世への未練を断ち切れない様を、井上靖は(聞き取れるか聞き取れないかの声で救けてくれと言った)に込めたのだそうです。

それからは補陀洛山寺の住職が61歳で渡海することはなくなりました。

金光坊の渡海の始終が伝えられ、そうしたことが世間の見方を改めさせたのです。

これを最後に渡海はなくなったそうです。 完

これで思い残す事なく会長としての一年間の年季奉公を終えることが出来ました。

この小説を読んで補陀落を目指すよりも今を懸命に生きる事が大事であるとあらためて思いました。私も聞こえるか聞こえないかの小さな声で、「援けてください」とお願いすることがあるかもしれません。その時は是非とも慈悲の心で聞き取って頂ければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

ニコニコ BOX

神子勝美 親睦担当部長

*平川恵敏 誕生祝を頂いて

石井智信 夜間例会に皆様にお越しいただいて

栗原典子 マザー牧場夜間例会に不参加で残念

三枝一雄 夜間例会に夫婦で参加して

須藤 隆 卓話をさせていただいて

*印 >1,000円 合計6,000円

出席報告

出席担当部長 平川恵敏

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	32/30	22	8		73.33%
前回	32/31	31	0		100%
前々回	32/29	23	6		79.31%

理事会報告

議事

1. 8月度プログラム日程について
2. 新規団体設立祝賀式招待への対応
(出席せず)

編集後記

会報の紙数として4ページ構成を基本に編集しておりますが、今回は、例会で話された内容だけでも4ページを超過したため、前々回に引き続き、やや冗長になりますが北欧旅行の写真を掲載し、更に、前期卓話の未掲載分を前号に引き続き掲載させていただき、6ページ構成としました。

8月は梅雨のような曇り空が続き、野菜や稲の生育が心配されます。厳しい夏の暑さには辟易ですが、自然にとっても、清涼飲料水の販売や観光業を生業としている企業にとっても、本来の暑い夏の到来を待ち望んでいたことでしょう。

残暑はこれからが本番です。暑さに負けないようよく食べ(飲み?)、よく寝て、ご自愛ください。

(すどう)